

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援・放課後等デイサービス共通)

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスつみき			
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～	令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発24人 放デイ22人	(回答者数)	児発24人 放デイ22人
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～	令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援・ペア支援・小集団支援等をそれぞれのお子様の特性や、保護者の要望に合わせて、適切な個別支援計画を組み立てた支援の実施。	・指導員間の情報共有 ・適切な教材・教具の選定 ・学習計画の目標立て(何をどの程度実施し、達成基準の明確化) ・グループ支援であっても児童が3人以上であれば指導員を2人以上配置	・年少児～小学生の各学年に応じた、発達段階目標のマニュアル作成や、学習の達成の段階表の作成等 ・指導員の支援技術向上のための研修実施 ・詳細な支援記録の作成と、情報共有をよりスムーズに行うための職員間の人間関係の構築
2	毎時間の支援の構造化と支援内容の繰り返しや定着を通じた自己肯定感を高める環境づくり	・繰り返しを要する課題を、指導員の補助や助言を受けながら取り組める環境 ・「ちょっと頑張る」の本児が取り組める目標設定 ・「取り組んだこと」に対してその場で評価ができる場作り ・個別や少人数による、静かに落ち着いて取り組む事の出来る環境設定	・個別支援計画の「支援目標」の具体化と、達成するための構造化 ・職員間の利用児童の目標の共有と、支援技術の向上 ・指導員による対応の差を小さくするための研修の実施や、連絡、報告、相談が忌憚なくできるようにするための環境づくり。職員同士で気軽に話し合える職場環境の構築
3	毎時間の支援を保護者がモニタリングできることや、支援後のFB(フィードバック)を通じた、きめ細かい報告体制や、保護者からの相談に対して、その場でサポートできる環境づくり	・静かな環境で保護者が、子どもの支援を観察できる場の提供 ・保護者との定期的な面談を通じて、思ったことや感じたことを話し合える信頼関係の構築 ・必要に応じて、幼稚園、保育園、小学校等との関係機関の連携を行う	・職員の保護者との面談スキルの向上。(話の聞き方、助言の伝え方、適切な距離の取り方等)

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会の充実	就学説明会や、ペア支援、グループ活動等によって、保護者同士が関わる機会や、場は作ってはいるが、全体に対しての取り組みではないため、一部のニーズは満たせていても全体のニーズを満たすことが難しい。 1回1時間の個別での支援形態を主としているため、保護者同士が交流する部屋の設定や、時間帯の調整が難しい。	定期的に行っているイベントのような形で、保護者同士の座談会や、交流会を企画したい。 職員会議等で、テーマの設定や時間の調整等を行っていく必要がある。
2	総合的な支援の見通しと支援のバランス感覚の養成	児童発達支援・放課後デイの多機能型の事業所のため、未就学～小学生を包括的に支援する必要性がある。各職員の前歴(幼稚園や保育園の指導歴等)があり、前職に関わる支援技術はあるが、小学生の指導等、初めて取り組んだり関わったりするものについては、児童や保護者への対応に個人差がある。	小学生の指導等、関わって来なかったものについては、現状、支援をしながら覚えていく形となっている。そのため、教室としての方針の共有や、児童、保護者への関わり方や接し方等のマニュアルが必要である。また、連携機関を介した外部研修などを通じて、学童の現場を観察、小学生との交流等を通じて小学生への理解を深めたり、自分なりの関わり方の気づきを得られる機会を増やしていきたい。
3			